

「帯」のはなし

飄

々

広報委員

吉川 功一

広報委員で順番に執筆しているこの「飄々」、せっかくなので医事問題などでも取り上げて気の利いた私見の一つでも述べられればよいのですが、いわゆる論客でもない私はどうも気が進みません。前回、似たような経緯で悩んだあげくに自己紹介を兼ねて個人的な趣味ビートルズのレコードについて書かせていただきました。実はお叱りを受けやしないかとヒヤヒヤしていましたが、意外にも複数の方から「ちょっと面白かったから、また書け」なんてありがたい声援をいただきました。というわけで調子に乗って、どうせ書くなら自分の好きなことを書いてみたいと開き直り、飄々と(?)ビートルズレコードネタ第2弾です。

CDの登場とともに絶滅の運命かと思われたレコードですが、最近ではリアルタイムでレコードに触れていない若い世代がファッション感覚でレコードに興味を持つようになり、世は密かなレコードブームとなっています。いまや新曲はデータ配信、ストリーミングが主流でCDすらプレスされないことが多い中、アナログレコードをターンテーブルにのせて聴く不便なおもしろさが逆に受け、また、迫力ある大きなジャケットがアート作品として受け、さらには休みの日にはレコードショップでお気に入りのレコードを探してコレクションする行為が受け・・・2000年代初頭をボトムに消えかかっていたアナログレコード、徐々に販売数が再び上昇し始め、売り上げはここ13年連続で上昇、特に昨年は一昨年に比べて更に売り上げは15%上昇したそうです。最近流行りのアーティストもデータ配信とともにアナログレコードを出すのが一種ステイタスとなり、ソニーミュージックが日本国内でアナログレコードのプ

レスを再開し、タワーレコード、HMVなどの大手が新宿、渋谷などに次々とアナログ専門店を開店するなど、レコードファンにとってはなかなか楽しいことになっているのであります。

さて、今回は貴重なイギリス盤の話を書きましたが、今回は日本盤のお話です。世界中にレコードコレクターは存在し、その趣向もさまざまです。ビートルズの場合、本国イギリス盤を至上として集める人はもちろんのこと、アメリカ盤に主軸を置く人、フランス、ドイツ、北欧などヨーロッパ盤まで興味を持つ人、さらには南米、中東、アフリカなどの珍盤いわゆる辺境盤ばかりを集める人、真空管機器を使ったカッティングで意外な人気のインド盤にこだわる人、ゲテモノとされるロシア、台湾盤などに走ってしまう人・・・さまざまな人種が存在します。そんな中、わが日本盤も実はなかなか世界的に人気があります。その人気の秘密はズバリ2点。1つはビートルズを日本で発売していた東芝音楽工業の特許エバークリーンレコード、いわゆる赤盤であること。世界的に見て当時のレコードは、ほぼすべて黒い塩化ビニルでプレスされていましたが、日本盤のみ特殊な帯電防止素材の赤いカラーレコードだったのです。世界のレコードコレクターが日本盤に興味ももつのは当然でしょう。そして日本盤の人気の秘密の2つ目が・・・ずばり今回の本題「帯」なのです。

レコード世代の方はもちろん、CD世代の方でも「帯」はご存じのことと思います。そう、ジャケットの左端にぐるりと巻かれたアレです。CDではケースを包むようにかぶせられる形態で引き継がれました。実はあの「帯」は日本独自の文化で外国盤ではほとんど見られません。元々は書籍に付けられた帯のほうが歴史が古いようで、広告宣

伝 / 販売促進、価格変動やコピー等への対応、似たようなデザインの表紙の識別のため、などの用途で作られたものです。それがレコードにも流用されたのですが、一番の理由は当時の日本人の英語読解能が低かったことにあるようです。つまり、洋楽レコードのジャケットをそのまま並べても誰のなんというレコードなのかわからないため、日本語でアーティスト名、レコードタイトルなんかをきちんと示す必要があったわけです。そこで帯が登場したわけですが、その後はさまざまな細かい情報を印刷するようになったり、日本独自のキャッチコピーを付けてみたり・・・レコード帯という日本独自の文化（ちょっと大げさ？）が花開いたわけです。そんな、日本盤の特徴である「帯」は世界的にも「OBI」として認識され、日本盤レコードには欠かせないものとなっています。逆に言うと、帯のない日本盤は魂の抜けたようなものの扱い、帯あってこそその日本盤、帯の有無で中古取引市場価格も大きく変わってしまいます（とても不健康なコレクター感覚・・・）。

ここまで読んでふと、とある考えが頭によぎった方はするどい・・・実はあの帯、多くの方が経験されていると思います。実に邪魔なんですよ。だから多くの場合、レコード購入とともに単なる紙切れとして破り捨てられてしまいます。しかしコレクターとしては帯がなくなってしまったモノより当然オリジナルの状態を保った帯付きレコードが欲しくなるわけで・・・となると、帯が残っている帯付きレコードが当然貴重物扱い、帯自体にプレミアがつくなんていう事態となるわけです。

そんな帯ですが、実は同じアルバムでも発売時期によってデザインが変遷し複数のデザインが存在します。一例として写真 1 にビートルズアルバム第 3 作「A HARD DAY'S NIGHT」（邦題：ビートルズがやって来る ヤア！ヤア！ヤア！）の帯一覧を示します。1964 年（昭和 39 年）に発売されたこのアルバム、ジャケットも発売当初は日本独自のデザインでしたが、帯も時代とともに実にさまざまな変化を遂げているのがおわかりかと思えます。いろいろな帯がありますが、一番初期のタイプ 1 をよくご覧ください。帯は一般にジャケットにぐるりと 1 周巻かれるので帯という名がついているのですが、タイプ 1 は下が切れてい

ますよね。この帯、実は一番上に 1cm ほどののりしろがありそこでジャケットにちょこんと引っかけてあるだけなのです。このため半掛帯とか半欠帯などと呼ばれています。この半掛帯、想像がつくと思いますがレコードを扱うたびにピラピラめくられて非常に邪魔になるのです。というわけで、のちのち価値がでるなんて当時誰も想像しなくて当たり前、ことごとく破り捨てられて、ほとんどこの世に残っていないのです。コレクターとは困ったモノで、日本盤を収集する場合、この帯を全部集めない気が済まない・・・当然、この半掛帯は大変希少なモノとして扱われ、現在では驚くべきアホらしい価格で取引されています。ちなみに私はそんなアホらしい価格で取引される半掛帯を 2 つも収集してしまったので、写真を載せておきます（写真 2）。



写真 2



写真 3

この半掛帯、あまりに現存数が少ないので初盤にしかついていなかったとか、いやいや、初盤のごくごく一部にしかついていなかったとかさまざま噂されていますが真相は未だによくわかっていません。1つの説として「初回出荷分、レコード 100 枚入り段ボール箱の中の一番はじめの 1 枚目だけに半掛帯がついていて、レコード屋店頭ディスプレイ用に使用された」なんていう噂なんかも囁かれていたりもします。

そんなこともあるのかなあ？なんて思っていた私ですが、とある学会会場の医学書販売ブースで

みかけた光景を見て「なるほど！」とハッとすることがあります。それが写真 3 なのですが・・・学会会場でそんなこと想像しているのはきっと私だけでしょう（笑）。

P.S. もし昭和 39～42 年頃に購入されたビートルズのレコードをお持ちの方がいらしたら、ぜひ帯をご確認ください。半掛帯（写真 1 の 1）あるいは水色三角帯（写真 1 の 3）なんかがついていたら大当たりです！

1964 年発売 A HARD DAY'S NIGHT (邦題: ビートルズがやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!) 帯一覧
 * 1964-1976 までは日本独自ジャケット。1976 よりイギリスオリジナルジャケットに変更

1 半掛帯	: 1964 年初版のごく一部のみ?	9 モノ細帯	: 1982
2 (帯なし販売期間)	: 1964-1966	10 モノ太帯	: 1986
3 水色三角帯	: 1966?-1967 (ごく短期間)	11 旗帯 (消費税帯)	: 1989-1991
4 オデオン矢帯	: 1967-1968	12 黒旗帯	: 1992
5 アップル矢帯	: 1969-1972	13 国内最終プレス帯	: 2004
6 Forever 帯定価 2000	: 1972-1973	14 2009 リマスター帯	: 2012
7 Forever 帯定価 2200	: 1973-1976	15 2009 リマスター帯 (BOX 仕様)	: 2012
8 旗帯	: 1976-1989	16 2014 モノボックス帯	: 2013

写真 1